

1. 本園の教育目標

I. 子どもの心を育てること

心とはその人そのもの、あるいはその人の基本的な感性である。心が育つということは、自分を持つということである。幼稚園では、幼児にふさわしい環境と指導を通して、人間として望ましい感性や価値観を育て、幼いながらも自分自身を築くことで、今後その子が生きていく上での礎としたい。

II. よい仲間社会を育てること

幼稚園教育は集団生活を通して行うものである。子ども一人一人が集団生活のルールをわきまえながらも、自己を素直に表現することができる、幼いながらも自立した仲間社会を育てることで、社会道徳を身につけさせたい。

2. 今年度の重点目標

I 自然を題材にした表現の保育の充実をはかる

II 保育向上のため、自ら試行錯誤や創意工夫に努める

III 各学年にふさわしい生活発表会の実現をはかる

3. 重点目標の取組状況

項目	取組状況と評価
自然を題材にした表現の保育の充実をはかる	<p>① 取組状況</p> <p>表現活動は、自己を確立する上で幼児期において重要な活動である。本園では、開園以来、身近な自然を題材にして、見たこと感じたことをその子なりに表現することを通して自己を確立していくことを目指している。今年も、園内研究会をはじめ公開保育等で研修する機会を多く設けて保育内容の向上に努めた。</p> <p>② 保護者アンケートの結果</p> <p>「子どもを本園に入園させて良かったか？」という設問に「大変良かった」「良かった」の合計が98.8%であり、高い評価を得ている。また、「本園の教育方針は理解できるか？」という設問に「大変理解できる」「理解できる」の合計が98.6%あり、よく理解されているといえる。</p> <p>③ 教員の自己評価の結果</p> <p>教員は本園の教育理念や教育方針を理解し、それに基づいて保育計画を立案することはできているが、実践において経験年数の浅い教員に表現の保育が充実できたとは言えないとの自己評価がある。園内研修では、他クラスの保育を見て具体的に保育内容や技術の勉強を行っているが、こうした取り組みを通じて、各教員の実践力を高めていくことで全体の底上げを図ることが今後の課題である。</p>

<p>保育向上のため、自ら試行 錯誤や創意工夫に努める</p>	<p>① 取組状況 本園では、身近な自然を題材にした表現の保育を実践している。日常的に園近辺の公園などに出かけて四季の自然に親しむほか、折々の生き物や草花を保育室に取り入れて子どもが愛着を持てるようにした。そうした生活の中で、子どもが感じたことや思ったことを様々な方法で表現することで、子ども一人一人の自立を促すことを目指している。</p> <p>② 教員の自己評価の結果 本園の教員は、園外保育を積極的に活用し、身近な小虫や植物などと親しみ表現活動につなげることの意識は高い。その結果、子どもが自然に目を向けることができるようになり、子どもが自らの考えを表に出すことができるようになってきているといえる。</p>
<p>各学年にふさわしい生活発表会の実現をはかる</p>	<p>① 取組状況 本園の生活発表会は、各学年ともに「お芝居ごっこ」に取り組んでいる。様々な表現活動を含むお芝居は、年度末に子どもの育ちを見ていただくのに最適であると考えている。一方で、保護者に見せるためのお芝居ではなく、子どもが考え、楽しみ、達成感の味わえるものでなければならない。各学年の子どもの発達状況に応じた、子どもが主体のお芝居ごっこことすべく取り組んだ。</p> <p>② 保護者アンケートの結果 今回の生活発表会を保護者に5段階評価していただいたところ、秀と優の評価の合計が65.8%であった。</p> <p>③ 教員の自己評価の結果 年長組と年中組は、新しい題材を発掘したり場面構成を工夫するなどして子どもが意欲的に取り組んだ作品が多かった一方、まだまだ不十分であるとの自己評価もある。各学年の子どもの発達や理解の程度にふさわしい題材とお芝居の構成について、引き続き次年度も模索をしていきたい。</p>

4. 学校関係者の評価

玉川学園幼稚園の運営は信頼できるものであり、保護者の満足度は高いといえる。本園の運動会は、大規模であるにも関わらず充実した内容と円滑な進行に定評があるが、会場の混雑緩和や保護者ボランティアの活用法など更なる改善のための工夫に努力してほしい。

5. 財務状況

公認会計士による監査において、当法人の計算書類は適正に表示されているものと認められている。

